自己評価結果公表シート

令和５年度門真めぐみ幼稚園
めぐみっこクラブ

１、園の教育目標

寺院より発祥した歴史的な基盤をもとに「あたたかい心の教育」を実践しています。それゆえに教育方針は「精神的には良寛上人に学び、その実践的技術は現代に学ぶ」を根底におき次のような「五つのちかい」により子どもたちの目標像を明らかにしています。

一、私たちは良き挨拶をする子どもになります
一、私たちは良きビジョンをもつ子どもになります
一、私たちは良く学ぶ子どもになります
一、私たちは良く感謝する子どもになります
一、私たちは良く奉仕する子どもになります

この「誓い」は仏教の「五正行」の教えをもとに考案し、子どもたち一人一人の生涯にわたる指針としても役立つものと考えています。

２、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 〇 本園の上記の方斜に沿って、園児の「幼児期に育ってほしい 10 の姿」を、園生活を通して相互に関連を持たせながらバランスよく総合的に養う。語の数が増える幼児期に絵本に楽しむこと、絵本のコーナーを充実「童話・童謡」に親しみを持つ。又古くから伝わる、こどもの日、七夕、お月見、ひな祭りなどの年中行事を園全体の「集い」とし、影絵、人形を使用し、子どもたちに親しみながら興味を持たせる。また三輪車を体育遊びに引き続き導入しアクティブラーニングを取り入れ、ルールを守ること、体を使って遊ぶことの楽しさを知り、体力向上を目指す。
- 〇 コロナ５類の移行に伴い、３年間できていなかった「地域との連携」を再開し、園児が地域の催しに参加する。

３、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取　　組　　状　　況
保育内容及び指導のあり方等を精査し、教職員間の共通理解をはかる	A	〇 保育内容を充実させるために毎週学年ごとにチーフを中心に話し合い保育の展開に役立てる。 〇 日々の保育の延長上に「行事」（運動会・音楽会 etc）があること、経験することにより子ども一人一人が自信を持てるよう適切に個々に言葉をかける。 〇 安全管理については各保育室、遊具の点検票を作成し行っている。防災意識を高めるため、避難訓練を毎月保育の中に取り入れている。 〇 特別支援については一人一人個々により発達が違うので指導計画を立て時には、市の発達相談を踏まえ、また保護者の意見も重視しながら個

		別支援計画を立てている。 ○ 食育については、給食時に赤（身体を作る基礎となる）・緑（身体の調子を整える）・黄色（身体を動かすエネルギーとなる）の色分けし学びを取り入れ、同時にマナーも学習。園庭に四季折々の草花も育て、クラスごとに夏野菜を決めて栽培し、冬は水耕でカイワレ等を栽培している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる	A	○ 絵画・制作では学年ごとに講師を招き、園内研修を充実し、公開保育を目指している。発達段階に沿った「あそび」を学び、子ども達に還元する。 ○ 体育遊びは講師を招き、年間カリキュラムを作り行う。学期ごとに講師より研修を受けている。 ○ 外部研修に参加後はレポートを提出し、同時に保育に活かせるように考える。
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対処を図る	A	○ 年 2 回の懇談会により、保護者のニーズの把握をし、クラス単位の HP で園の生活が保護者に伝わるように工夫した。 ○ バスキャッチ導入により保護者の要望である保健衛生情報、例えばインフルエンザ、麻疹、水疱瘡等を手軽に知らせることが出来ている。 ○ 保護者の要望(クレーム等)は真摯に受け止め、園全体で把握、素早く対処し、終了で職員に共通理解をしている。 ○ 子供についての相談等、担任は時間の許す限り保護者とコミュニケーションを取るようにして信頼関係を築いていく。
地域社会との連携	A	○ 園庭開放やめぐみ広場を通して地域の人々と交流し、HP や園の正門、バス等で行事を周知し地域の安心できる遊び場として、又、子育てのセンター的な役割が果たすことができるよう努力している。 ○ 盆踊り等と季節の行事に地域の方と交流している。
情報公開	A	○ 保護者が入園を選択するという幼稚園の特性より、積極的に園だよりやホームページで園の方針や教育活動などを伝えるように努めてきた。22 年度より「毎日のできごと」等、クラス単位での活動を公開し、毎年さらなる充実を目指している。 ○ HP 上に「情報公開」の項目を公開している。 ○ 子育て支援(園庭開放・めぐみ広場・さくらんぼ組)の日程をトップページの「おたより欄」に掲載し、地域の方々に伝えている。

A.十分達成されている　B.達成されている　C.組み込まれているが、成果が十分ではない
D.組み込みが不十分である

４、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

B	○ コロナ５類移行を踏まえ、縮小していた行事をコロナ禍以前に徐々に戻すことで「開催」を前提に初めて経験することで、一定の評価を得た。 ○ 園の特色教育の充実に向け、自己点検、自己評価を実施、実践が出来るように努力している。

	○　コロナ禍以前の保育や行事の内容を再確認し、リズムあそび等友だちと触れ合ったり、歌を気にせず歌ったりと、少しでも例年に近づき子どもたちの自信や意欲につながるよう取り組んだ。 ○　園が「子育て支援」の情報をHPで発信していくことにより地域とのつながりや家庭との連携を深める。 ○　基本的生活習慣の自立に向け、年齢に応じて指導を継続的に行っていこうと考えている。

A.十分達成されている　　B.達成されている　　C.組み込まれているが、成果が十分ではない
D.組み込みが不十分である

５、今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み方法
園に対する保護者の満足度の把握	保護者が構成している後援会や実行委員の方々と協議しながら園の行事をすすめ、決して満足度が最高ではないが、一定の評価を得ている。
子育て支援の充実	未就園児保育・園庭開放等子育て支援に加え、終了後も子育て相談を行い、適時アドバイスをする。 子育て支援の低年齢化が傾向としてみられ、より幅広い知識を身につけることに注力している。
心を育てる教育	仏教園ならではの特徴性を生かし 1、教師や友達のかかわりを通して、思いやりや自己肯定感を育てていく 2、ルールやマナーを守り、特に年長組に対しては相手の立場に立って考える等規範意識を育てていく。 上記を踏まえ、運動会・生活発表会・絵画制作展などの「行事」を通して、教師との関わりの中で自尊感情、自己有用感を育む。 3、園の教育目標の「あいさつをするこども（おはようございます、ありがとう等)」その場に応じて相手に伝えることができるような子どもに育てる。
教育・保育要領の改訂の方向性と整合性の確保	幼児期の終わりまで育ってほしい姿をアクティブラーニングの視点から保育内容を見直す為、職員研修の外部研修の機会を設けたり、府の幼児教育アドバイザーの資格取得を見座している（現在３名)。園内研修の充実、改訂を踏まえ、職員の質向上を目指しているが、個人差が大きい。
特別支援教育	増加傾向にある支援を要する子どもについては、インクルーシブ教育を目指すと共に、職員や行政の巡回相談を活用し対応している。保護者との認識の差異がある場合がある。一人一人の支援、園児の特性に見合った体制づくりを進めていくと、予算や職員配置、特に「人」が足りず苦慮している。
防災・防犯に対する意識の向上	880万人の訓練など、積極的に取り入れ毎月の防災、防犯避難訓練を通し、園児への防災教育は徹底してきた。防災計画の周知を保護者説明会等で行い、積極的に情報発信を行い、意識の向上に努めていく。 また、園児には平常時から防災力の向上を図っていくため紙芝居や防災訓練時の講話を通して防災教育を図っている。

学校関係者評価

- コロナが収束し、運動会や音楽会が例年通り開催され、子どもたちは達成感や成功体験を得ることができたと思います。
  日々に生活はもとより、年中行事で得られる学びはとてもたくさんあると思います。それも先生方のご指導があってこそだと思います。ありがとうございます。この１年間とても充実して園生活を送ることができました。
- 今年度はコロナ前とほぼ同じように行事ができて良かったと思います。
  自由参観で給食の時間でしたが、みんなで楽しく食べている姿を見れて嬉しく思います。コロナ前を知っている先生方、実行委員が少なく戸惑うこともありましたが、うまく話し合いができ進めることができたと思います。
  準備や通常保育でお忙しい中、本当にありがとうございました。
- めぐみ幼稚園は雰囲気がとてもよく、先生方も熱心で親も子も幼稚園生活が楽しいです。
  職員の皆さんがとても一生懸命で全てにおいて気遣って下さることがいつもよく伝わります。
  学年クラス関係なく、先生方が園児１人１人の名前を覚えていて子どもたちをしっかり見てくれているのだろうと感じています。また、教職員の皆さん、バスの方を含め、いつも保護者に対して温かい姿勢で対応していただけました。

〈公開保育より〉

- 年少さんも先生の話をよく聴き、子どもたちが様々なアイデアを出して取り組んでいる。
- 決まった時間になると絵本の部屋に入って先生が読んでいる絵本を見ている子どもたちの姿がとても自然で良かったように思う。
- 保育の中で、色々な道具を使い１人１人が様々な色、アイデアを出す姿、友だちと協力し合って楽しんでいる姿が印象的でした。
- クラスの子どもたちが元気いっぱいで、でも先生の話を聞くときは集中できていた。